

2024年度 法学研究科法学専攻 修士学位論文一覧

▶ 法政リサーチコース

氏 名	修士論文テーマ
田 中 智 也	同族会社の過大経費の否認のあり方 ——所得税法37条と法157条の適用関係の検討——
岡 野 仁 哉	日本における荘園制の展開と荘園整理令 ——中世荘園の成立まで——
川 島 嵩 史	なぜ「生態系のために」という理由付けは擁護できないのか ——キャリコットの環境倫理学の所説を手がかりとして——
金 時 拓 也	翻案権侵害の判断基準
當 摩 紘 之	カール・シュミット国家観の変遷 ヴァイマル共和国末期から第二次世界大戦直後まで
高 橋 宏 太	イギリス労働党内新旧左派の比較分析 ——ジェレミー・コービンとアナイルン・ベヴァン——
田 辺 翔	外航貨物海上保険証券における準拠法指定条項改訂の意義
初 田 樹	1954年厚生省通知による在留外国人に対する生活保護法の 「準用」に関する英独比較法的考察
古 谷 玲 緒	性自認に従った性別で取り扱われる権利について ——法令上の性別取扱いと社会生活上の性別取扱い——
三 宅 優 奈	私文書偽造罪における作成者の意義について ——名義使用の承諾を中心に——
GAO Haojun (高浩鈞)	企業データ改ざんに対する原因究明とその予防について
SHAN Yu	外国子会社合算税制の過剰課税問題と目的論的解釈 ——最判令和5年11月6日みずほ銀行CFC課税事件の検討を中心に——
ZHANG Xiangtian (张翔天)	中国法におけるデータの域外移転規制

▶ リーガル・スペシャリストコース

氏名	修士論文テーマ
井上 雅 貴	非上場会社のバーチャルオンリー型株主総会の開催可能性
今井 菜 緒	株式報酬に係る経済的利益の収入計上時期の課税問題 ——リストラクテッド・ストックに係る経済的利益の収入計上時期の検討を中心に——
熊岡 知 里	嫡出推定・否認制度の意義・役割とその考慮要素に関する考察 ——令和4年親子法改正を受けて——
竹重 太 翔	年齢という属性に着目したアフーマティブ・アクションは正当化できるか
鳥本 吉 隆	給与所得該当性の判断基準の再検討 ——近年の判例・裁判例や雇用の多様化をふまえて——
中野 康 史	Web3.0を巡る課税上の諸問題の検討
畑中 瞭 佑	一時所得の非継続性要件の再検討 ——近年の裁判例を中心に——
平山 晶 菜	小規模宅地等の特例における「生計」要件の検討 ——東京高裁令和3年9月8日判決を題材として——
見好 慶 祐	株主提案権制度の立法時の趣旨と現在のあるべき姿
森尻 英 斗	民事裁判手続のデジタル化の現状と課題
米谷 凌	事業所得と雑所得の区分に関する検討 ——最近の副業事案の検討を中心に——

▶ 公務行政コース

氏名	修士論文テーマ
岩見 勇 亮	司法アクセスからみた民事訴訟のIT化 ——さらなるアクセスの向上に向けて——
貴志 真 全	農山村における内発的発展について ——和歌山県田辺市上秋津地区の地域づくりの事例から——
袖崎 雛	裁判員裁判における刺激証拠の適切な採否のあり方

*全コースとも学籍番号順